

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495200602		
法人名	社会福祉法人 康陽会		
事業所名	グループホームやわらぎ2号館	ユニット名(1階ユニット)	
所在地	仙台市宮城野区東仙台5丁目1-27		
自己評価作成日	令和 5年10月10日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年10月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中嶋病院グループの事業所であり、医療と介護の手厚いサービスが受けれます。介護職員配置も国の基準より多く配置し、利用者様一人ひとりに関われる環境となっています。介護職員の給与水準が高く、手厚い福利厚生により離職率は5%未満です。将来に不安のない待遇で、介護で働きたいというスタッフが集まっている。良いサービス＝介護職員であり、介護職員へ投資することによりサービスの質が良く好循環となっている事業所です。Facebookに日常生活などアップしていますのでご覧ください。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

和モダンな雰囲気2ユニットのホームは、マンションや戸建て等が混在する住宅地に位置している。歴史ある「案内公園」が目の前にあり、公共交通機関の利便性も良く環境にも恵まれている。隣接する「グループホームやわらぎ」のサテライト型グループホームとして、令和5年4月に開設され半年が経過した。管理者は両ホームを兼務しており4ユニットと捉え、人事異動を含め相互の協力関係を築いている。全館でWi-Fi(ネットワーク端末)が使える設備や最新の乾燥機等を導入し、随所に手すりの工夫も見られる。「ゆったり、楽しく、自分らしく、地域と共に」の理念に沿って本人本位の支援を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームやわらぎ2号館 )「ユニット名 1階ユニット 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時の新人スタッフ指導、年1回の勉強会の読み上げなど、既存スタッフも理念の共有をはかっている。	開設時に話し合い、隣接する「やわらぎ」に合わせた理念を事務所に掲示し共有している。気持ちに寄り添い、何をしたいかを把握しながら入居者にとって居心地の良いホームを目指し、時間の流れを大切に支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所より町内会費を支払っている。町内行事へ参加し日常的に交流している。今年から夏祭りが再開され出店の出店や利用者様の参加できとても楽しい祭りとなった。	外出が可能になり、再開された町内会の夏祭りを楽しんだ。ハーモニカのボランティアの来訪があり、一緒に歌ったり演奏を楽しんでいる。地域で立ち上げた認知症カフェの準備が順調に進行し、ネーミングも決まった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	東仙台包括支援センターより依頼があり新田地区での認知症講和を行った。また現在、東仙台地区認知症カフェの立上メンバーとして活動中である。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の構成が、町内会長・民生委員・近隣の方・包括支援センター・御家族・行政・やわらぎとなっており、その都度意見交換している。(コロナ禍で資料郵送中で今年度中に再開予定)	会議は「グループホームやわらぎ」と合同で、2ヵ月毎に開催し10月までは書面での報告をしている。次回からは対面の会議を予定しており、意見交換等もこれから行うとしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度で不明なことや運営について良く電話相談している。包括支援センターとは日頃より密に連携している。	サテライト型グループホームの、新規開設前後の運営についてのアドバイスを得、指導監査も受けている。講師の依頼があり、地域の認知症カフェで、管理者がグループホームの認知症ケアの実践について講話をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・権利擁護の外部研修、内部の委員会年4回(全体会議で報告)、勉強会年2回開催(基礎、事例等)。今年度から適切ケア・不適切ケアのアンケートを行い全体会議で報告。入職時のオリエンテーション時にも指導。	入居者の日常の様子や、サービスの向上につながるよう職員の行動で気付いたことがあれば、アンケートに記しボックスに入れる。玄関は自動施錠方式で防犯カメラも設置されている。感知すると職員間で共有出来る。ホーム内は自由に行動している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・権利擁護の外部研修、内部の委員会年4回(全体会議で報告)、勉強会年2回開催(基礎、事例等)。適切ケア・不適切ケアのアンケートを行い全体会議で報告。入職時のオリエンテーション時にも指導。	全体会議時に「虐待防止委員会」と「身体拘束廃止委員会」で、それぞれ検討されたアンケートの報告があり職員は勉強をしている。更にユニット毎でも話し合っ共有し、虐待の無いケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が令和2年にやわらぎへ異動してきてから成年後見人制度を利用する方がまだいなく、以前いた小田原の事業所では後継人を立てる際の面談など立ち会っていた。老施協へ加入しており社協とは連絡を取る機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず時間をとり、管理者が一つ一つ説明し納得の上で契約を交わしている。改定の場合は、前もって運営推進会議にて説明させていただきご意見や質問を伺い、また面会時話をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話による意見、要望を聞き取りする機会が多く(ケアプラン説明等)記録に残し、周知する。玄関にはご意見箱を設置。家族様の面会時には、管理者が直接会話を持つようにしている。	開設してから約半年経過し、ホーム内での入居者の雰囲気も落ち着きが見られるようになった。家族からの相談があれば、随時話し合っている。自宅の売却についての相談等は、場合によっては弁護士に相談している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を行い意見交換をしている。夏と冬年2回管理者との面談を行う。管理者は変化し続ける事業所を目指し、新しい意見や発想をスタッフから常に聞き出し働きやすい環境を意識している。	世の中はずっと動いていることから、目標の変化や新しい意見が必要と捉えている。常に職員の発想を積極的に取り入れ、働きやすい環境づくり、変化するホームを目指している。職員の福利厚生面も厚遇されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員旅行や年度末一時金、無料での基本健診、予防接種、楽天及びベガルタ観戦チケット、仙台七夕花火大会観戦チケット、スポーツジムなど様々な福利厚生等に取り組んでいただいている。また今年度はベアアップを実施した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り外部研修や、法人内研修に、介護職員全員が研修に参加するように取り組んでいる。(スキルアップ・実践者研修・初任者研修・リーダー研修・認知症基礎研修等)		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、東仙台認知症カフェの開催に向け他事業所と定期的に打合せを行っておりその際ケアマネを同行させ地域と介護の関わりを学んでいただいている。また、老施協の次世代委員にて活動し他事業所との意見交換内容を全体会議を通してスタッフへ周知している。	若手の育成を目指す「老施協の次世代委員」に於いて、ICT(情報通信技術を活用したコミュニケーション)の勉強会をしている。宮城県と仙台市の老施協の交換研修も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様気づきシート、心身の情報(私の気持ちシート)を用いて、生活のリズムを把握し嗜好や不安なことなどスタッフ間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調時に得た情報を含まえ、面談をしたり、家族様来所時に日頃の様子を伝えている。こまめに電話、メール連絡をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サマリー・ADL表を活用。家族様からの情報も得たうえで、本人と接し必要とされる部分を支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬い、今までの経験で培ってきたものを教えていただき、各自の役割を持った関係作りをしている。その為、スタッフから入居者へ「ありがとう」の感謝を述べる場面がいつもある。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様来所時に必要な事を伝え、協力していただいたりしている。また、面会時にスタッフが自らコミュニケーションを図り、その都度入居者の状況や出来ごとを報告し信頼関係の構築をしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の娘様と入居者様本人が手紙を書いてやり取りを手伝ったり、携帯電話の使用時に職員が近況を伝えるなど関わったりしている。	ドライブで秋保の有名なおはぎを食したり、友人が来訪し居室でお喋りを楽しみながら旧交を深めている方がいる。訪問理・美容や、3名が訪問マッサージを利用する等関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に入居者様との間に入りスタッフが声掛けをしたり話題を提供したりしている。各自が家事や生活の中の役割を持ち(食器拭きなど)入居者同士で協力し合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。転居先(HP・施設等)への訪問。親族に関する悩みや支援についても相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に1度ユニット会議にて、日々の記録をもとに把握するように努めている。その間に何かあった場合はその都度ユニットにて検討会を開いて対応。ドライブ、散歩、買物の要望に対応している。	日常の会話やモニタリングとケース記録等で把握し共有している。職員で話し合いが必要と判断すればレ印を付けて検討し、席の変更につなげた事例がある。発語が難しい方は、仕草や表情から判断することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様より、暮らしの情報シートに記入をいただき把握に努め、サービスに活かしている。以前使用していた生活の品を持ち込んで頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送り、ユニット毎にある申し送りノートを活用しスタッフ間の情報共有に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議にて一人一人のモニタリングを行い、必要に応じて家族様、本人と個別に面談等をしている。スタッフからの意見、アイデアを基まとめ計画作成者が介護計画を作成している。	介護システムを活用し、ケース記録をはじめ各情報を共有している。本人・家族の希望で医師の紹介状を持参し、以前通院していた眼科で診察を受けた結果、血流が良くなりモヤモヤの症状が改善した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や申し送り、会議等でのモニタリングカンファレンスにより、情報を共有し見直している。必要に応じてこまめにカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様は勿論のこと、ご家族様の面会時には積極的にコミュニケーションを取ることによってニーズを把握し、スタッフ間でその都度状況に合わせ情報交換を行い、柔軟にケアできるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーへ買い物へ行く機会が多く、利用者様の買い物意欲へのフォローをしている。外出では仙台市科学館や多賀城歴史博物館など10月より外出行事を再開予定している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療と24時間連携している。入居時に訪問医より本人と家族からの今後の希望と対応について面接を行っている。訪問看護、訪問歯科も毎週あり、細やかな支援を行っている。他の診療医に付き添いもを行っている。	全員が法人の中嶋病院の訪問診療を、月2回受診している。大学病院に家族と通院している方がおり、定期検査と本人の病気による体調不良時に送迎の支援をしている。訪問歯科、訪問看護も充実した支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同グループの訪問看護ステーションと契約を交わし、月4回入居者の健康管理と情報交換を行っている。また、医療対応で不安なことなどあればその都度電話にて相談もしている。体調不良時は個別契約している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本部が病院であり連携できている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、必ず説明を行なう。入居者様の状態変化に合わせてカンファレンスをし、同グループの訪問看護や訪問医との連携をはかっている。見取りの際は訪問医とスタッフが家族様へ説明し意向を必ず聞いている。	「重度化した場合の指針」と「同意書」等を明文化し、入居する際に説明をしている。まだ看取りの事例はないが、殆んどがベテランの職員であり、今後の状況の変化に応じて関係者間で話し合い、段階的な合意に努めたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、急変・事故発生時にそなえている。中嶋病院訪問医から中嶋病院へ救急搬送の協力体制が出来ている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。同グループと災害時の協力体制を計っている。また隣接しているサテライト事業所と協力ができ火災時などの受入が出来るよう連携している。	初回は初期消火と機器の使い方を勉強した。次回の訓練は11月を予定している。隣接するホームの火災発生時の協力体制は構築しているが、大型の自然災害等に備え地域の協力体制の検討もお願いしたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ間にて、その方の好き嫌いな話題などを共有し個々に合わせた声掛けやタイミングを重視している。トイレや入浴介助にはプライバシーに注意し、本人希望にて同性介助を行っている。人生の先輩として敬う気持ちで対応している。	本人が触れられたくない話題と察したら、その会話に気を付けている。2名の方が入浴の同性介助を希望し支援している。居室で読書やラジオを聞いて過ごしたい方は、その人の生活スタイルに合わせた支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の発言を否定せず、出来る限り思いを受け止め行動に移せるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の調子や発言、行動を見ながら希望に沿った過ごし方を支援している。毎月カンファレンスを行い、その人の思いや気持ちをくみ上げ、ケアプランへ反映させ実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問床屋を利用したり、愛用の化粧品を常備し必要時使っておしゃれをしている。また、季節にあった装いが自由に出来るようにタンス内の衣替えを行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1回施設内で季節の行事を行い食事やおやつで楽しめるよう工夫している。入居者の食べたいメニューや季節を感じられるメニューを提供している。(コロナ禍で外食、外出出来ない)	食材は近隣の店からの配達で、職員がメニューを作成している。テラスで炭火をおこしバーベキューをしたり、誕生会のケーキを楽しんでいる。フロアに「今日のメニュー」を、スタンドボードに書き出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	残食のチェックを行い、食事量低下がある方には補助食品など提供している。毎日10時と15時をお茶の時間としている。食事量確認だけでなく、毎月の体重測定も行っている。夏場は特に水分量に気を付け一人ひとりの体調をみて水分提供を行っている。年2回栄養スクリーニング・評価をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科と連携し、年2回口腔ケアアセスメント・評価している。食後の口腔ケアの声掛け、介入をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各部屋にトイレ、フロアには誰でも使用できるトイレがあり可能な限り、時間・行動のタイミングをみてトイレでの自排ができるように誘導している。また排便の有無を毎日確認し把握に努め、排便コントロールを行って支援している。	居室にトイレがあり、プライバシーに配慮出来る。トイレの場所が認識できずリハビリを使用していた方が、排泄チェック表を参考にトイレに誘導することを繰り返すことにより、場所を覚え布パンツに改善した方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の促しやリハビリ体操を行い取り組んでいる。腹圧マッサージ等を行い最終手段として下剤を服用している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	出来る限り一人ひとりの希望時間・曜日に調整している。湯船の湯温や脱衣場の室温に注意を払い、入浴剤を使用したり、しょうぶ湯、ゆず湯などで季節感を楽しんでもらい気持ちよく入浴して頂いている。	週2回入浴している。真新しい浴室はシックな色合いで、入浴リフトが設置されている。手すりの工夫も見られ安全に配慮している。桃の葉エキス配合(保湿成分)の石鹸を全員が使用し、肌のトラブルが皆無となった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節毎に居室の温度と湿度に注意し、季節にあった掛け物を使用している。日々の様子や体調を確認しながら、安心出来る声掛けを行い休んでいただく。本人が希望する寝具があればそれを利用し安眠に繋がるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方袋記録ファイルがあり、スタッフが目を通し把握できるようにしている。変化があれば、その都度掛かりつけ医やナースに報告している。服薬は本人と名前を確認の上、手渡しや粉薬はとろみをつけるなど対応し、それぞれ飲み込むまで見守り確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な手作業や家事手伝いで役割を感じていただいている。誕生日に誕生会をしケーキを食べたり、皆で祝っている。15時のおやつ後には歌を唄ったり、ゲームなどのレクリエーションやリハビリ体操等を行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、買い物など本人が行きたい時には出来る限り対応している。地域の夏祭りにはご家族様にも参加の声掛けをし、一緒に楽しむ時間を提供することができた。	開設直後の繁忙もあり、外出がままならないところもあった。そんな中でも本人の希望で買い物に行ったり、塩釜へのドライブでの外食や地域の夏祭りを楽しんでいる。今後は更に楽しみたいと外出計画を検討中である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	各自の希望や能力により、個人管理又は事業所管理としている。所持する金額については本人希望と家族との相談を行っている。買い物に付き添う支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら携帯電話で家族様と連絡を取り合っている。手紙のやり取りができるように住所録記入の見守りや代筆、投函の支援を行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室を出ると廊下からは、フロアや台所が分かりやすい導線になっている。フロアには季節ごとに飾り付け、ホワイトボードで今日の日付、献立表などで生活感を取り入れている。天気の良い日はテラスに出て日なたぼっこをしている。	フロアの花の飾り付けが季節感を醸し出している。車の交通量が多く、夕闇が迫る頃の外の灯りで日中とは違う景色が窓から眺められる。テレビのネット動画で歌や体操等楽しんでいる。居心地が良く、ゆったりとした空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはテーブルが複数あり、キッチンカウンターもあり、好きな場所でゆったり過ごせる空間づくりを行っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家族様に説明し、本人が使っていたものを持ってきていただいている。また、家族の写真や飾りを置くことで居心地の良い生活空間、好みの部屋となっている。居室内にトイレもありプライベートに配慮している。	洗面台とトイレが設置されている。トイレは壁の手すりの他、座ってからアーム型の台を前に降ろして手を乗せられる様工夫されている。ベッドや使い慣れた寝具、家族写真等を持ち込みシンプルで落ち着いた居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも通りやすい広い廊下や手すり設置にて、なるべく自ら行動しやすい環境ができています。居室とトイレの扉が引き戸で使いやすく、居室は施錠できることで安心感を与えています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495200602		
法人名	社会福祉法人 康陽会		
事業所名	グループホームやわらぎ2号館	ユニット名(2階ユニット)	
所在地	仙台市宮城野区東仙台5丁目1-27		
自己評価作成日	令和 5年10月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

中嶋病院グループの事業所であり、医療と介護の手厚いサービスが受けれます。介護職員配置も国の基準より多く配置し、利用者様一人ひとりに関われる環境となっています。介護職員の給与水準が高く、手厚い福利厚生により離職率は5%未満です。将来に不安のない待遇で、介護で働きたいというスタッフが集まっている。良いサービス＝介護職員であり、介護職員へ投資することによりサービスの質が良く好循環となっている事業所です。Facebookに日常生活などアップしていますのでご覧ください。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年10月27日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

和モダンな雰囲気2ユニットのホームは、マンションや戸建て等が混在する住宅地に位置している。歴史ある「案内公園」が目の前にあり、公共交通機関の利便性も良く環境にも恵まれている。隣接する「グループホームやわらぎ」のサテライト型グループホームとして、令和5年4月に開設され半年が経過した。管理者は両ホームを兼務しており4ユニットと捉え、人事異動を含め相互の協力関係を築いている。全館でWi-Fi(ネットワーク端末)が使える設備や最新の乾燥機等を導入し、随所に手すりの工夫も見られる。「ゆったり、楽しく、自分らしく、地域と共に」の理念に沿って本人本位の支援を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームやわらぎ2号館 )「ユニット名 2階ユニット 」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I.理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入社時の新人スタッフ指導、年1回の勉強会の読み上げなど、既存スタッフも理念の共有をはかっている。	開設時に話し合い、隣接する「やわらぎ」に合わせた理念を事務所に掲示し共有している。気持ちに寄り添い、何をしたいかを把握しながら入居者にとって居心地の良いホームを目指し、時間の流れを大切に支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所より町内会費を支払っている。町内行事へ参加し日常的に交流している。今年から夏祭りが再開され出店の出店や利用者様の参加できとても楽しい祭りとなった。	外出が可能になり、再開された町内会の夏祭りを楽しんだ。ハーモニカのボランティアの来訪があり、一緒に歌ったり演奏を楽しんでいる。地域で立ち上げた認知症カフェの準備が順調に進行し、ネーミングも決まった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	東仙台包括支援センターより依頼があり新田地区での認知症講和を行った。また現在、東仙台地区認知症カフェの立上メンバーとして活動中である。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の構成が、町内会長・民生委員・近隣の方・包括支援センター・御家族・行政・やわらぎとなっており、その都度意見交換している。(コロナ禍で資料郵送中で今年度中に再開予定)	会議は「グループホームやわらぎ」と合同で、2カ月毎に開催し10月までは書面での報告をしている。次回からは対面の会議を予定しており、意見交換等もこれから行うとしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度で不明なことや運営について良く電話相談している。包括支援センターとは日頃より密に連携している。	サテライト型グループホームの、新規開設前後の運営についてのアドバイスを、指導監査も受けている。講師の依頼があり、地域の認知症カフェで、管理者がグループホームの認知症ケアの実践について講話をしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止・権利擁護の外部研修、内部の委員会年4回(全体会議で報告)、勉強会年2回開催(基礎、事例等)。今年度から適切ケア・不適切ケアのアンケートを行い全体会議で報告。入職時のオリエンテーション時にも指導。	入居者の日常の様子や、サービスの向上につながるよう職員の行動で気付いたことがあれば、アンケートに記しボックスに入れる。玄関は自動施錠方式で防犯カメラも設置されている。感知すると職員間で共有出来る。ホーム内は自由に行動している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・権利擁護の外部研修、内部の委員会年4回(全体会議で報告)、勉強会年2回開催(基礎、事例等)。適切ケア・不適切ケアのアンケートを行い全体会議で報告。入職時のオリエンテーション時にも指導。	全体会議時に「虐待防止委員会」と「身体拘束廃止委員会」で、それぞれ検討されたアンケートの報告があり職員は勉強をしている。更にユニット毎でも話し合っ共有し、虐待の無いケアを実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が令和2年にやわらぎへ異動してきてから成年後見人制度を利用する方がまだいなく、以前いた小田原の事業所では後継人を立てる際の面談など立ち会っていた。老施協へ加入しており社協とは連絡を取る機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には必ず時間をとり、管理者が一つ一つ説明し納得の上で契約を交わしている。改定の場合は、前もって運営推進会議にて説明させていただきご意見や質問を伺い、また面会時話をしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話による意見、要望を聞き取りする機会が多く(ケアプラン説明等)記録に残し、周知する。玄関にはご意見箱を設置。家族様の面会時には、管理者が直接会話を持つようにしている。	開設してから約半年経過し、ホーム内での入居者の雰囲気も落ち着きが見られるようになった。家族からの相談があれば、随時話し合っている。自宅の売却についての相談等は、場合によっては弁護士に相談している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体会議を行い意見交換をしている。夏と冬年2回管理者との面談を行う。管理者は変化し続ける事業所を目指し、新しい意見や発想をスタッフから常に聞き出し働きやすい環境を意識している。	世の中はずっと動いていることから、目標の変化や新しい意見が必要と捉えている。常に職員の発想を積極的に取り入れ、働きやすい環境づくり、変化するホームを目指している。職員の福利厚生面も厚遇されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員旅行や年度末一時金、無料での基本健診、予防接種、楽天及びベガルタ観戦チケット、仙台七夕花火大会観戦チケット、スポーツジムなど様々な福利厚生等に取り組んでいただいている。また今年度はベアアップを実施した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り外部研修や、法人内研修に、介護職員全員が研修に参加するように取り組んでいる。(スキルアップ・実践者研修・初任者研修・リーダー研修・認知症基礎研修等)		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、東仙台認知症カフェの開催に向け他事業所と定期的に打合せを行っておりその際ケアマネを同行させ地域と介護の関わりを学んでいただいている。また、老施協の次世代委員にて活動し他事業所との意見交換内容を全体会議を通してスタッフへ周知している。	若手の育成を目指す「老施協の次世代委員」に於いて、ICT(情報通信技術を活用したコミュニケーション)の勉強会をしている。宮城県と仙台市の老施協の交換研修も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様気づきシート、心身の情報(私の気持ちシート)を用いて活用し本人の言動を把握し、情報をスタッフ間で共有しサービスにつなげるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実調時に得た情報を含まえ、面談をしたり、家族様面会時に日頃の様子を伝え情報共有に努めている。こまめに電話、メール連絡をして伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サマリー・ADL表を活用。家族様からの情報も得たうえで、本人と接し必要とされる部分を支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員・他入居者と共に家事など行い、役割を持ち生活していただいている。その為、スタッフから入居者へ「ありがとう」の感謝を述べる場面がいつもある。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に家族様への現状報告を行い、また、家族様から情報を得るなどし、共に本人を支えていけるようにしている。行事に家族も参加していただく機会を設け家族との時間を作り、本人の現状を把握していただいている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠方の姉妹、知り合いの方と入居者様本人が電話でのやり取りをお手伝いし、関係継続の支援に努めている。	ドライブで秋保の有名なおはぎを食したり、友人が来訪し居室でお喋りを楽しみながら旧交を深めている方がいる。訪問理・美容や、3名が訪問マッサージを利用する等関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性の把握に努め、必要に応じ職員が介入し各自に役割を持って頂き、利用者様同士が支え合えるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。転居先(HP・施設等)への訪問。または、電話、メールにて連絡を取り合っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の言動に注目し、要望があれば可能な限り対応している。毎月のユニット会議にて検討し、本人の希望や意向の把握に努めている。	日常の会話やモニタリングとケース記録等で把握し共有している。職員で話し合いが必要と判断すればレ印を付けて検討し、席の変更につなげた事例がある。発語が難しい方は、仕草や表情から判断することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様に暮らしの情報シートを記入して頂きスタッフが把握するように努めている。また分からないことが出てきた場合はその都度聞けるよう協力をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送りにてスタッフ間での情報共有を大切に現状把握に努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議にてアセスメントを行い、入居者様の日々の生活、要望また家族様の要望、スタッフからの情報を考慮し計画作成担当者が介護計画を作成している。	介護システムを活用し、ケース記録をはじめ各情報を共有している。本人・家族の希望で医師の紹介状を持参し、以前通院していた眼科で診察を受けた結果、血流が良くなりモヤモヤの症状が改善した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の充実を図るとともに、モニタリング時、情報共有を行い、様々な視点から本人の現状を把握している。必要に応じてこまめにカンファレンスを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズを把握しスタッフ間でその都度状況に合わせ情報交換を行い、柔軟にケアできるよう取り組んでいる。家族様面会時にはニーズについて情報を伺いケアに繋げられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーへ買い物へ行く機会が多く、利用者様の買い物意欲へのフォローをしている。仙台市科学館や多賀城歴史博物館など10月以降より外出行事を再開予定している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療と24時間連携している。入居時に訪問医より本人と家族からの今後の希望と対応について面接を行っている。訪問看護、訪問歯科も毎週あり、細やかな支援を行っている。他の診療医に付き添いもを行っている。	全員が法人の中嶋病院の訪問診療を、月2回受診している。大学病院に家族と通院している方がおり、定期検査と本人の病気による体調不良時に送迎の支援をしている。訪問歯科、訪問看護も充実した支援をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同グループの訪問看護ステーションと契約を交わし、月4回入居者の健康管理と情報交換を行っている。また、医療対応で不安なことなどあればその都度電話にて相談もしている。体調不良時は個別契約している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本部が病院であり連携できている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時、必ず説明を行なう。入居者様の状態変化に合わせてカンファレンスをし、同グループの訪問看護や訪問医との連携をはかっている。見取りの際は訪問医とスタッフが家族様へ説明し意向を必ず聞いている。	「重度化した場合の指針」と「同意書」等を明文化し、入居する際に説明をしている。まだ看取りの事例はないが、殆んどがベテランの職員であり、今後の状況の変化に応じて関係者間で話し合い、段階的な合意に努めたいとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、急変・事故発生時にそなえている。中嶋病院訪問医から中嶋病院へ救急搬送の協力体制が出来ている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。同グループと災害時の協力体制を計っている。また隣接しているサテライト事業所と協力ができ火災時などの受入が出来るよう連携している。	初回は初期消火と機器の使い方を勉強した。次回の訓練は11月を予定している。隣接するホームの火災発生時の協力体制は構築しているが、大型の自然災害等に備え地域の協力体制の検討もお願いしたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ間にて、その方の好き嫌いな話題などを共有し個々に合わせた声掛けやタイミングを重視している。トイレや入浴介助には、プライバシーに注意している。本人希望にて同性介助を行っている。人生の先輩として敬う気持ちで対応している	本人が触れられたくない話題と察したら、その会話に気を付けている。2名の方が入浴の同性介助を希望し支援している。居室で読書やラジオを聞いて過ごしたい方は、その人の生活スタイルに合わせた支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が納得できるよう確認の声掛けを忘れず、自己決定していただけるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのように過ごしたいか本人に確認し、個人のペースに合わせることができるよう支援している。その人の思いや気持ちをくみ上げ、ケアプランへ反映させ実践している。日々の申し送りを把握している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問理容を利用し、その人らしい身だしなみができるよう支援している。季節に合わせた装いが出来るようタンス内の整理、衣替えを行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節ごとの食材やメニューを提供することで季節を感じていただいている。可能な限り準備・片付けには参加していただいている。誕生日、行事メニューも取り入れている。	食材は近隣の店からの配達で、職員がメニューを作成している。テラスで炭火をおこしバーベキューをしたり、誕生会のケーキを楽しんでいる。フロアに「今日のメニュー」を、スタンドボードに書き出している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の摂取量を把握し、食事量・体重低下がみられる際には補助食品の提供している。水分量が少ない方には好む飲み物、甘いジュースも提供している。年2回栄養スクリーニング、評価している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科と連携し、口腔衛生に努めている。年2回口腔ケアアセスメント・評価している。食後、口腔ケアの声掛け、介入をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間や行動のタイミングを見て誘導を行うなど、トイレでの排泄を心掛けている。一人ひとりに合った支援を行っている。排便コントロールが必要な方については下剤の調整を行っている。	居室にトイレがあり、プライバシーに配慮出来る。トイレの場所が認識できずリハパンを使用していた方が、排泄チェック表を参考にトイレに誘導することを繰り返すことにより、場所を覚え布パンツに改善した方がいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の促しやリハビリ体操を行っている。本人に合わせた排便コントロールを行えるよう下剤等利用し取り組んでいる。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	出来る限り本人の希望時入浴を行っている。また、湯船の湯温や脱衣場の室温に注意を払っている。入浴剤を用いたり、シャワー湯、ゆず湯などで季節感を楽しんで頂いている。	週2回入浴している。真新しい浴室はシックな色合いで、入浴リフトが設置されている。手すりの工夫も見られ安全に配慮している。桃の葉エキス配合(保湿成分)の石鹸を全員が使用し、肌のトラブルが皆無となった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせ対応している。傾眠や疲れがみられる時には休んで頂くよう声掛け、誘導を行っている。居室の室温調整や掛物調整を行い、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルに薬の情報はさみ、変更時は記録に記入し、全員が把握できるよう努めている。服薬ボックスを活用し、間違いなく服薬できるようにスタッフ2人で対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	バックグラウンドを本人や家族様から聞き、今の状況に合わせた支援(制作・家事)をしている。15時のおやつの中には、ゲーム、体操をしている。季節の行事やお誕生日会など楽しみを持てる機会を設け支援をしている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ、また本人が行きたい時には出来るだけ出掛けられるよう対応している。家族様に協力していただき外食をしている。地域の夏祭り行事等に参加し外出の機会を設けている。	開設直後の繁忙もあり、外出がままならないところもあった。そんな中でも本人の希望で買い物に行ったり、塩釜へのドライブでの外食や地域の夏祭りを楽しんでいる。今後は更に楽しみたいと外出計画を検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方にはお金を所持していただいている。又、預り金を用意し、いつでも自由に使えるようにしている。買い物の希望時はスタッフが付添い出掛ける。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけられるようにしている。(親子、姉妹、親戚にかけている)ハガキ、手紙のやり取りの希望があった際には、返信のお手伝いを行っている。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある制作物を掲示し、フロアでも季節の移り変わりを感じていただいている。フロアや居間で気の合った方々同士でくつろげる空間になっている。施設内は温度・湿度の調整、換気を行い快適に過ごしていただけるよう努めている。	フロアのハロウインの飾り付けが季節感を醸し出している。車の交通量が多く、夕闇が迫る頃の外の灯りで日中とは違う景色が窓から眺められる。テレビのネット動画で歌や体操等楽しんでいる。居心地が良く、ゆったりとした空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席は決まっているが、それ以外は自由に過ごしていただいている。気の合った利用者様同士は自室に招いて会話をされている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家族様に説明し、本人が使っていたものを持ってきていただいている。また、家族の写真や飾りを置くことで居心地の良い生活空間としている。居室内にトイレもありプライベートに配慮している。	洗面台とトイレが設置されている。トイレは壁の手すりの他、座ってからアーム型の台を前に降ろして手を乗せられる様工夫されている。ベッドや使い慣れた寝具、家族写真等を持ち込みシンプルで落ち着いた居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも通りやすい広い廊下や手すりを設置しなるべく自行動ししやすい環境ができている。ADLに合わせた環境作りをしている。居室とトイレの各入口は引き戸で使いやすく工夫している。		